

聖書日課 『からし種』 2024.4.14-4.21

<p>4月14日 (日)</p> <p>詩編 147編</p>	<p>「打ち砕かれた心の人々を癒し／その傷を包んでくださる」(3節)。これはバビロン捕囚から戻って来たイスラエルの人々がエルサレム神殿の再建に取りかかった頃の歌。バビロンでの捕囚生活はかなり苦しい毎日であっただろう。そのような状態から神の慈しみにより帰還できた喜びの歌である。どんな時にも共にいてくださる主に感謝したい。</p>
<p>15日 (月)</p> <p>詩編 148編</p>	<p>「主の御名を賛美せよ。主は命じられ、すべてのものは創造された」(5節)。天界と地界の被造物の名を列挙して、それらに主への賛美を呼びかける歌。それぞれ創造されたものたちはその定めに従い、神を賛美することが求められている。人間に与えられた定めとはすべてのものを治めること。この定めを守り、神に従い賛美を捧げたい。</p>
<p>16日 (火)</p> <p>詩編 149編</p>	<p>「踊りをささげて御名を賛美し／太鼓や堅琴を奏でてほめ歌をうたえ」(3節)。主イエス・キリストが私たちにしてくださったことは、踊りをささげて御名を賛美するほどのことなのだと思う。その救われた喜びによって、踊り、伝道、奉仕などをしたくなるのだ。すると、さらにキリストとの深い関わりに生かされていく者と変えられる。</p>
<p>17日 (水)</p> <p>詩編 150編</p>	<p>「力強い御業のゆえに／神を賛美せよ。大きな御力のゆえに／神を賛美せよ」(2節)。私たちは「神の力強い御業のゆえに」その恵みに生かされて心から神をほめたたえる者になりたい。「力強い神の御業」とは主イエスの十字架の死と復活ではないか。このことを通して神がどれほど私たちを愛して下さっているかを知らされる。ハレルヤ。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.4.14-4.21

<p>18日 (木)</p> <p>箴言 1章</p>	<p>「主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しも侮る」(7節)。神のみ旨に従っていくにはどう生きていったらいいのか、神に愛される者となるにはどうしたらいいのかを教えている言葉だと思う。この世にはこの世の知恵があるはずだと思いやすが、どんな中にも主を畏れ、主を大切にしていけることが生きる基本となる。</p>
<p>19日 (金)</p> <p>箴言 2章</p>	<p>「あなたは主を畏れることを悟り／神を知ることに到達するであろう」(5節)。どうしたらここに辿りつくのか。「銀を求めるようにそれを尋ね／宝物を求めるようにそれを捜すなら」(4節)主を畏れることを悟る、ということであろう。それとは、御言葉であり、知恵、英知、戒めのことである。銀を求めるように、主を求める者になりたい。</p>
<p>20日 (土)</p> <p>箴言 3章</p>	<p>「常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる」(6節)。これは、言い換えれば、神を求め、み旨を求めて生きていくこと、どこまでも主に従っていくこと。たとえ失敗があり、苦しみにあったとしてもそれは無駄ではないことを覚えておこう。主は私たちの道を真っ直ぐにしてくださる。</p>
<p>21日 (日)</p> <p>箴言 4章</p>	<p>「何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある」(23節)。箴言は「知恵」と「分別」の大切さを繰り返し説く。「分別」とは「第一にすべきことと後回しにすべきことを区別すること。私たちは「第一のものを第一に」選び取ることができているだろうか。「自分は分かっている！」とおごる「愚者」にならないように、今週も主に御言葉を求めることから始めよう。</p>